

人のご縁で
でっかく
まきろ！

楠クロフネカンパニー代表

中村 文昭

僕の夢であるウエディングレストランは2億かかります。問題はそのカネをどこから借りるか、です。うちの親父は貧乏なんで親父から借りることはできない。お金持ちの人といつても誰一人コネがありません。

確かに僕はそれまで小さなお店を出して成功しました。でもそれくらいで銀行が僕のことを応援してくれるはずもありません。それで思いついたのが、「僕にカネを貸してくれるお金持ちを探そう」ということです。僕と逆の人を探せばいいと考えたんです。僕は若い、そして夢がある。だからカネがない。この逆の人です。お年寄り、夢がないけれどカネを山ほど持っている、そういう人と手を組めばいいと思ったんです。

当時は個人情報保護なんてなかったので、高額納税者の名前が新聞に載っていました。僕が23歳のときです。そのリストを新聞で見つけたとき、僕の前に道ができたと思えましたね。「よ

夢がないけどカネがあるお年寄りを探せ！

◇7◇

し片っ端から会いに行こう」と思ったんです。

普通、「どう考えても無理や」とみんな言いますよね。でも僕はそんなこと言っても始まらない。とにかく動かないと変わらないことを知っていましたから、上から順番に会いに行っただけです。

□ ■ ■ ■ □

アポイントもなしに、突然家や会社に行つてこう尋ねました。

「新聞によると随分な稼ぎと随分な納税をされているようですが、それだけ稼いでどうなさるつもりなんですか？ そのお金をどう生かすおつもりですか？」つて。そしたらだいたい皆さん、「大きなお世話じゃ」と言われま

す。そりやそうですよ。ただ僕には師匠から「なんぼ稼ぐかじゃない、人間の値打ちは何に使うかなんや」と教わってきたので、社長の値打ちを知りたくてそんなことを聞いたわけです。

「僕まだ年23歳の鼻タレですけど、今小さい店で繁盛せてもらっています。そ

やけど僕が一端の事業家になれたら絶対世の中の為になるように金を使います。いい車なんて買わないし、豪邸なんて建てない。見てももらったら分かります。だから余らせている財産で、土地の権利証とかを銀行に担保に入れてもらえんのですか？ 願わくはこの連帯保証人の空白にあなたの名前を入れていただきたい」

そんなことを言うたんです。あの「赤福」の社長さんところにも行きました。「赤福」の社長さんは、「お前、それを言いに来たんか？ いやあアホもおつたもんやなあ。今時珍しい奴やなあ」と感心してくれましたけど、そんな簡単に「うん。」とは言ってもらえません。

でも不思議なことにそれがきっかけで赤福の社長さんは僕の小さな店にたまに来てくれるようになった。

「社長どうしたんですか？」と聞くと、「お前の顔を見に来たんや、お前の顔見ると元氣もらえるからな。まだ金持ちに会いに行つてんのか？」と聞かれて、「お陰様でやっていますよ」と返したら「おまえも懲りない奴やなあ。でも頑張れよ」と励ましてくれるんですよ。

（昨年、高鍋西都法人会が主催した講演会にて）